

# 教師ノート

週課	第二年 第二課 第一週
単元	詩篇と預言者
テーマ	主の教えを喜ぶ
タイトル	主の教えをよろこぼう
テキスト	詩篇1篇
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇1:2-3
AG 日曜学校教案参照箇所	
<p>□導入 興味を起こす質問をしましょう</p> <p>例:草花がイキイキと育つには、水が必要です。では、わたしたちがイキイキと育つには、何が必要でしょうか？</p> <p>□ポイント1 神さまに背いて生きる人たちと同じように歩まない人は幸いです(1節)</p> <p>1節では、「悪者」「罪人」「あざける者」のように生活しない人は幸せだ、と説明されています。「正しいことをする」のと「悪いことをしない」のでは、前者の方が積極的です。ですから、「悪の道に従わない生活」というのは、「みことばに従う生活」と比べると、消極的に聞えるかもしれません。しかし、<u>神さまに背いて生きる人たちと同じように歩まないことは、それだけで、幸せになるために充分有効な方法と言えるのです。もし、あなたがイエスさまと出会っていなかったら・・・、もしあなたが聖書を知らなかったら・・・、どんな生き方をしたでしょうか？人の悪口を言ったり、人のものを勝手に取ったり、いじめたり、ケンカをしても謝らなかつたり・・・それが当たり前だったかもしれません。ケンカや悪口ばかりの人生よりも、少しでもそれを減らして生きる方が、ゼツタイ幸せです。神がそれを喜ばれ、祝福してくださるからです。</u></p> <p>☆もし、あなたがイエスさまを信じていなかったら、どんな悪者になっていたか・・・！？想像してみよう。</p> <p>☞「悪者」「罪人」「あざける者」とは、(それぞれ違う特徴の違う3者を表しているというよりも、)神の命令に背き、自己中心で傲慢な生き方をする人のことを、色々な言い方で表現しているのだと考えられます。</p> <p>☞(4節)悪者は「風が吹き飛ばすもみがらのようだ」と書いてあります。麦を空中に投げると、軽いものは風にとばされ、重いものは下に落ちます。昔の人は、それで良い中身のある麦と中身の無いもみがらを選別しました。もみごらは軽くて不要なものです。農夫が作った作物の一部でありながら、農夫によって捨てられるものです。神に背いて生きると、中身が無いもみごらのような人になってしまいます。悪者は人間社会で信用されません(正しい者のつどいに立てない)。悪者は、裁判所や政府のような正義の場で居場所がなく、認知されません(さばきの中にたちおおせず)。ですから、神に背いて生きる人たちと同じように歩まない人は幸いです。</p> <p>□ポイント2 いつも主の教えを喜びとし、その教えを口ずさむ人は幸いです(2節)</p> <p>2節には真に幸いな人が、積極的に取り組むべきことが書かれています。ヘブル語の「トラー」はしばしば「律法」と訳され、モーセ5書をさします。しかしここでは、「トラー」が「主の教え」と訳されています。この「トラー」という語には、基本的に「神が人間に与えた人生の案内・指導(instruction)」という意味があります。ですから、この「<u>主の教え</u>」は律法の書だけでなく、<u>聖書全体</u>ととらえるべきでしょう。聖書</p>	

は、創り主なる神が人間を創った意味に沿って書いた案内書・指導書のようなものです。その根源的な意味を無視して過ごせば、人生が虚しいものになるのは当然です。真に幸せになるには、「主の教えを喜びとする」ことが、カギなのです。では、聖書の教えを喜べるようになるには、どうしたらよいのでしょうか？「口ずさむ」とは「昼も夜も口ずさみ、そこに書かれていることをすべて忠実に守ること」です(ヨシュア1:8)。つまり心と頭で深く思い巡らし、実践することです。ですから、聖書の教えを喜べるようになるには、みことばを日常的に、ディポジションし、心に留め、実践することが必要です。「口ずさむ」ことによって、みことばの喜びが発見できるのです。

☞ 箴言に「わが子よ。私のおしえを忘れるな。私の命令を心に留めよ。」とあります。そしてそうすれば、長生きと平安が増し加えられると約束されています(箴言3:1-2)。

### □ポイント3 その人は、水路のそばに植わった木のように、自然に豊かで幸せな人生を送ります(3節)

3節には、前節の「主の教えを喜びとし、それをいつも口ずさむ人」が、それではどんなに幸せなのか？ということが、木の比喻を用いて表現されています。木が生茂るか枯れるかは、その環境(特に水が供給されるかどうか)にかかっています。「植わった」は、原語では、自然に植わるのではなく、違う場所から植え替えられたという意味が入っています。ほとんど雨の降らない乾燥した土地から、いつも豊かに水が流れている灌漑用水路のそばに移植された木は、間違いなく生き生きとするでしょう(パレスチナは非常に乾燥しています)。そのように、主の教えに従う人は、間違いなく、イキイキと幸せになるのです。

☞ この比喻は、単に義人の幸福と繁栄のようすを表しているだけではありません。聖書の深い真理をしつかりと伝えています。それは、水が豊かに供給されれば、自然におのずから木が生茂るように、主の教えに従う人は自然の結果として幸せになるということです。正しい人が幸せになるのは報酬や見返りではありません。すべてを創りすべてを与える主のガイドラインに従って生きるから、自然の結果として栄えるのです。(スポーツでも、インストラクターに従えば、自然に上達するのと同じです。)

☞ (5~6節) 義人とは主を恐れる者であり、その畏敬を日常生活に反映させる人です。その人は悪を遠ざけ主の教えからいかに生きるべきかを学び、人間の能力におごることがありません。対照的に、神を否定し自己中心に生きる人の最終的な運命は、滅びです。例え一時的には咲き誇っても、それは、はかない命なのです。しかしキリストはどんな悪者も愛してくださり、枯れた木さえも生き返らせることができます。そして永遠の命を与えてくださいます。そしてみことばに従って歩むならば、何をしても栄えると約束されています。

☞ クリスマスは「何をしても栄える」のですが、その実は「時が来ると」結ばれます。その「時」は、神が備えておられる一番良いタイミングです。私たちは、ただ「主の教え」に従い、罪から離れた聖い生活をして、その時を待つべきです。

□結論 みことばに従う人は、幸せになります 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1) 草木にとって水は「命」です。水があれば自然と木が豊かに育つのに同じように、すべてを造り、すべてを与えてくださる神さまの教えに従えば、自然に幸せになります。幸せに生きるためのガイドラインとして、聖書が与えられていることを喜びましょう！神さまのみことばをいつも口ずさみましょ。いつもディポジションをして、深く味わいましょ。そうすれば、さらに喜びがわいてくるよ！

例2) みことばを口ずさむということには、それを実践することも含まれています。みことばを聞くだけで、生活の中でそれを無視していたら、あなたは「もみがら」もしくは「砂の上に建てた家(マタイ7:26-27)。日曜日だけでなく、毎日みことばを行なう人になろう！そうすれば、結果として、あなたは幸せになります。まず何から始めますか？年の初めの決心をしよう！

例3) イエスさまも狭い門と広い門のたとえで、2つの生き方があることを示されました(マタイ7:13、ルカ13:24)。みことばに従うか、罪の心に従うか、選ぶのはあなたです！私たちは毎日、色んな場面での選択をしなければなりません。まず、クリスマスになって幸せだあ〜と感謝しよう。そして、いつも主の教えの方を選ぼう！「そうすれば、あなたは何をしても栄える」って最強の約束だね！